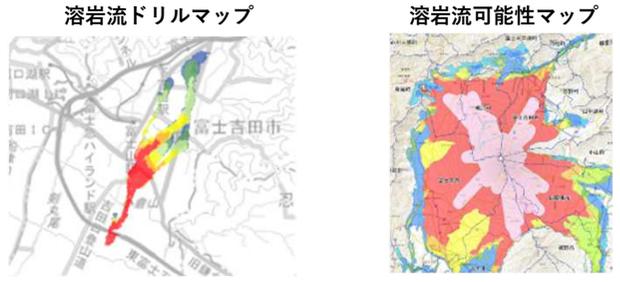
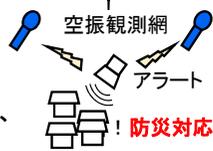


研究種目：成長戦略課題

富士山の山岳ハザード検知のための空振観測研究（R5～R7）

山梨県富士山科学研究所

<p>背景</p> <h2>富士山噴火発生</h2> <p>【噴火口位置の特定】</p> <p>○ 即時かつ正確 × 特定の遅れ, 低い信頼性</p> <p>必要な地域のみ避難を実施 → 迅速な避難体制の実現</p> <p>全方位避難 (11万人以上) → 逃げ遅れが発生するリスク</p> <p>溶岩流ドリルマップ 溶岩流可能性マップ</p> 	<p>問題点</p> <p>悪天候下で、速やかに災害を観測する手段がない</p> <ul style="list-style-type: none">映像による観測 : 悪天候時には、そもそも活用できない(見えない)。地震動の観測 : 特定までに時間を要する。空振(音)の観測 : 悪天候でも観測可能(見えなくても、聞こえる)。 : 観測網運用のノウハウの蓄積が不十分 ▷ 観測点が少ない。 <p>空振を発生させるハザード : 雪崩、落石、地すべり、雷等。 ▷ 雪崩や落石の発生時刻や位置も詳しく観測されていない。</p> <p>目的・目標</p> <ol style="list-style-type: none">効果的な空振観測点の特定噴火口位置を特定する観測網の整備雪崩、落石観測の実証実験による高精度化 <p>▷ 雪崩や落石の検知で空振によるハザード観測のノウハウを蓄積、噴火災害時に活用可能な体制を整備</p>  
<p>研究内容</p> <p>研究1 観測網デザインに向けた調査 (通年, 月2回程度) 車両で移動し広範囲で空振観測 (最適地点の割り出し) 音源方向を推定し、空振騒音源の把握状況調査 (運用試験)</p> <p>研究2 空振観測網の部分的構築 (2年目以降) 候補地点で試験的な観測を実施し、観測点としての適性を調査 遠隔地でのデータ取得テストの実施による通信環境の精査</p> <p>研究3 実践的な観測実験 候補地点に地震計と空振計を設置し、観測を開始</p> <p>(3.1) 雪崩観測 (冬季: 秋～春) (3.2) 落石観測 (夏季: 春～秋)</p>	<p>得られる成果</p> <ul style="list-style-type: none">空振観測網の構築による多角的観測体制の整備 <p>【噴火災害時】</p> <ul style="list-style-type: none">即時かつ正確に噴火口位置を特定することで効率的な避難体制の構築 <p>【平時】</p> <ul style="list-style-type: none">雪崩や落石を検知することで登山者・観光客、周辺住民の安全を確保 <p>目指す将来像 ハザードの自動検知・即時アラートシステム導入による 安全性の高い観光地としてのブランドを確立</p>

共同研究機関 (予定) : 東京大学、北海道大学、富山県立大学、慶應義塾大学